

## 【添付資料】 出演者プロフィール

### 城田優（出演・演出）



2003年に俳優デビュー。以降、テレビ、映画、舞台、音楽など幅広く活躍。近年の主な出演作に、NHK連続朝のドラマ小説「カムカムエヴリバディ」（語り手）、Amazon Primeドラマ「エンジェルフライト～国際霊柩送還士～」、映画「コンフィデンスマンJP英雄編」等がある。舞台では2010年にミュージカル「エリザベート」で第65回文化庁芸術祭「演劇部門」新人賞、2018年ミュージカル『ブロードウェイと銃弾』で第43回菊田一夫演劇賞、2021年ミュージカル「NINE」で第28回読売演劇大賞優秀男優賞を受賞するなど数々の賞を受賞。2016年に「アップル・ツリー」で演出家デビュー。演出・主演作品に、2019年版ミュージカル「ファントム」、ミュージカル「カーテンズ」、演出作品に、米倉涼子との共同プロデュースによる「SHOW TIME」、プロデュース作品に、IMY(山崎育三郎・尾上松也とのユニット)オリジナル舞台「あいまい劇場 其の壱『あく』」がある。

7月22日開幕のミュージカル「ファントム」では、主

演・演出、助演シャンドン伯爵役の3刀流という、前代未聞の挑戦に臨む。

公式サイト <https://shirota-yu.com/>

### Crystal Kay（ゲストボーカル/兵庫）



1999年「Eternal Memories」でデビュー。「Boyfriend -part II-」「恋におちたら」などのヒット曲で大ブレイク。2015年にCrystal Kay feat. 安室奈美恵

「REVOLUTION」、「何度でも」（フジテレビ系木曜劇場『オトナ女子』挿入歌）を含むロングヒットアルバム『Shine』のリリース後も、LIVEなど精力的な活動を続けている。

2019年アーティスト活動20周年を迎えたCrystal Kayは、トニー賞4部門受賞のブロードウェイミュージカル「PIPPIN」の日本版にも出演。読売演劇大賞

優秀女優賞を受賞。2021年11月5日には映画「DANCING MARY ダンシング・マリー」主題歌、「ひとりじゃないから」をデジタルリリース。2022年3月29日には米NBAの八村塁選手所属クラブ、ワシントンウィザーズのホームゲームにて国歌斉唱とハーフタイムパフォーマンスを披露した。

公式サイト <https://www.universal-music.co.jp/crystal-kay/>

## 清水美依紗（ゲストボーカル/東京）



2000年3月10日生まれ、22歳・三重県出身 2021年6月、ディズニーのグローバルな祭典「アルティメット・プリンセス・セレブレーション」の日本版テーマソング「Starting Now～新しい私へ」の歌唱アーティストに選ばれる 2022年4月、メジャーデビューシングル「High Five」をリリース。同年9月、ミュージカル「フィスト・オブ・ノースター～北斗の拳～」にてミュージカル初挑戦。今年 2023 年夏にはブロードウェイミュージカル「ビートルジュー

ス」のリディア役として出演。  
アーティストとしてもミュージカル女優としても活躍する。  
公式サイト <https://www.horipro.co.jp/shimizumiisha/>

## 栗田博文（指揮）



神奈川県小田原市生まれ。  
1988年、第23回東京国際音楽コンクール指揮部門において第1位優勝を果たし、一躍注目を集める。翌年、国内主要オーケストラを指揮しデビュー。1989年に渡欧。同年、イタリアにおいて第1回アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクールに入賞し国際的な評価を確立した。神奈川フィルハーモニー管弦楽団指揮者を経て、1995年5月にフィンランド・ヘルシンキにおいて開催された第1回シベリウス国際指揮者コンクールの最高位に輝く。同年9月にはフィンランド放送交響楽団より招かれヨーロッパデビューを果たし大好評を博す。以後、ヘルシンキフィルハーモニー管弦楽団等に客演し、指揮者としてのキャリアを着実に積んでいる。また、国内外の活発な指揮活動とともに、国立音楽大学客員教授も務め、後進の指導にも力を注いでいる。クラシック音楽の古典から現代作品まで幅広いレパートリーを持つほか、様々なジャンルとのコラボレーションも積極的に行っている。今後の活躍がさらに注目される指揮者である。  
公式サイト <http://kurita.jugem.jp/>

## 宮本貴奈（ピアノ・音楽監修）



国際的に活躍するピアニスト・作・編曲家。物語が見えるようなサウンド、繊細かつダイナミックで多彩なプレイで、ジャズ、ポップスから弾き語り、オーケストラまで幅広く活躍。バークリー音大&ジョージア州立大修士卒。エドマン・ジャズピアノ大会で全米優勝、参加作が米グラミー2部門ノミネート。「アトランタベストジャズ(2年連続)」 「ジョージア州で最も影響力のある女性」他受賞多数。20年米英(ボストン、NY、アトランタ、ロンドン)を拠点に活動後 2013年に帰国、八神純子、佐藤竹善、サラ・オレイン、小野リサ、May J.、稲垣潤一等と共演、アレンジ・プロデュース、ビッグバンド・オーケストラ編曲・音楽監督、劇版音楽まで幅広く手がける。2020年【ワンダフル・ワールド】発表、ミュージックペンクラブ音楽賞全ポピュラー部門最優秀作品賞受賞。茨城県結城市出身。国立音楽大学講師。2023年4月よりミューザ川崎シンフォニーホールのジャズ部門ホールアドバイザーに就任。

公式サイト [www.takana.net](http://www.takana.net)

## ジーン・ジャクソン（ドラムス）

米国ペンシルバニア州フィラデルフィア生まれ。1979年にボストンのバークリー音楽大学で Branford Marsalis、Cyrus Chestnut、Jeff Watts など多くの有名なジャズアイコンと共に学ぶ。ベテランジャズギタリスト Kevin Eubanks のバンドに参加しながら、1987年に New York に移り、プロドラマーとしてのキャリアを積み重ねていった。Dave Holland、Christian McBride、Andrew Hill、Terence Blanchard、Hugh Masekela、Diane Reeves など、世界のトップジャズミュージシャンと共演し、数多くの世界ツアーやジャズフェスティバル、150を超えるレコーディングに参加。その中でも注目すべき活動は、1991年の Herbie Hancock & Wayne Shorter Quartet、1993年から2000年まで Herbie Hancock Trio & Quartet への参加である。2018年ジーン・ジャクソンがリーダーを務める Trio NuYorx のアルバム【Power Of Love】を Whirlwind Recordings からリリース。現在プリンス・クラウス音楽院（オランダ）と洗足学園で指導にも力を注いでいる。

## パット・グリーン（ベース）

米国ニュージャージー州出身。ニューヨークを主な拠点とし約10年間ブロードウェイミュージカルやジャズクラブ（ブルーノート、スモールズ、タウンホール、ビターエンド等）でサム・リヴァース、ポビー・ヴィントン、シガー・ロスといったアーティスト達と演奏を共にし、キャリアを重ねた。2007年に来日してからは、エディ・ヘンダーソン、エリック・アレキサンダー、松田聖子、今井美樹、八神純子といった国内外のアーティスト達と共演。さらに様々なミュージシャンのレコーディングに参加し活動の場を広げ、自身初のリーダーアルバム【Who's On Bass】（ピアノ：サイラス・チェスナット、ドラム：カール・アレオン）をリリースした。レイクランド大学ジャパンキャンパスで音楽を教えている。



## 日本センチュリー交響楽団

1989年に活動を開始し、2019年に楽団創立30周年を迎えた大阪府・豊中市を拠点とするオーケストラ。現在、飯森範親が首席指揮者、秋山和慶がミュージックアドバイザー、久石譲が首席客演指揮者を務める。ザ・シンフォニーホールで開催するシンフォニー定期演奏会、ハイドンの交響曲全曲演奏・録音プロジェクト「ハイドンマラソン」に加えて、

豊中市立文化芸術センターでの名曲シリーズを展開する。オーケストラ体感コンサート「タッチ・ジ・オーケストラ」をはじめ教育プログラムや地域連携事業にも力を入れている。

公式サイト <https://jcso.or.jp/>

## 東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本のオーケストラとして最古の歴史をもち、メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督ジョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフ。自主公演の他、新国立劇場他でのオペラ・バレエ演奏、NHK他における放送演奏で高水準の演奏活動を展開。また、海外公演も積極的に行い、国内外から高い注目を集めている。1989年からBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

公式サイト <https://www.tpo.or.jp/>

## About Peanuts

The characters of Peanuts and related intellectual property are owned by Peanuts Worldwide, which is 41% owned by WildBrain Ltd., 39% owned by Sony Music Entertainment (Japan) Inc., and 20% owned by the family of Charles M. Schulz, who first introduced the world to Peanuts in 1950, when the comic strip debuted in seven newspapers. Since then, Charlie Brown, Snoopy and the rest of the Peanuts gang have made an indelible mark on popular culture. In addition to enjoying beloved Peanuts shows and specials on Apple TV+, fans of all ages celebrate the Peanuts brand worldwide through thousands of consumer products, as well as amusement park attractions, cultural events, social media, and comic strips available in all formats, from traditional to digital. In 2018, Peanuts partnered with NASA on a multi-year Space Act Agreement designed to inspire a passion for space exploration and STEM among the next generation of students.

### 【「ピーナッツ」とは】

「ピーナッツ」のキャラクターおよび関連する知的財産権は、Peanuts Worldwideが所有し、WildBrainが41%、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントが39%、チャールズ M.シュルツ氏のファミリーが20%を保有しています。チャールズ M.シュルツ氏が初めて「ピーナッツ」の仲間たちを世の中に紹介したのは、1950年。「ピーナッツ」が7つの新聞紙上でデビューを飾った時でした。それ以来、チャーリー・ブラウン、スヌーピーをはじめとするピーナッツ・ギャングたちは、ポップカルチャーに不滅の足跡を残してきました。Apple TV+で親しまれているピーナッツの番組や特番に加えて、世界中のファンの皆様には、多種多様な商品、アミューズメントパークのアトラクション、文化イベント、ソ

ーシャルメディア、そして伝統的な紙媒体からデジタルまで各種媒体で掲載されている連載コミックなどを通して「ピーナッツ」を楽しんでいただいています。さらに2018年、「ピーナッツ」は、NASA とスペース・アクト・アグリーメントで複数年の提携をしました。このスペース・アクト・アグリーメントは、宇宙探査とSTEM への情熱を啓発するよう次世代の子供たちに向けてデザインされたプログラムです。

■関連 URL

- ・日本のスヌーピー公式サイト <http://www.snoopy.co.jp/>
- ・日本のスヌーピー公式 Facebook ページ「Snoopy Japan」 <https://www.facebook.com/SnoopyJapan>
- ・日本のスヌーピー公式 twitter アカウント「Snoopy Japan」 <https://twitter.com/snoopyjapan>

■当社からお送りする画像をご利用の際は、必ず下記クレジットを表記してください。

© 2023 Peanuts Worldwide LLC ( 短縮形 © 2023 Peanuts )